

新潟県出身の最初の大蔵大臣

あらい

けんたろう

荒井賢太郎 (1863-1938)

高田藩士の家に生まれる

荒井賢太郎は、1863年（文久3）10月7日、高田城下の市の橋（現・上越市西城町三丁目）に高田藩士荒井直静の長男として生まれました。賢太郎は、藩校修道館・新潟学校第四分校を経て、新潟学校師範学科に学び、師範卒業後は1880年（明治13）から1884年（明治17）まで柏崎小学校に勤務し教鞭をとりました。

東京帝国大学で法学を学ぶ

1884年（明治17）賢太郎は司法官を目指して上京し、司法省法律学校に合格しました。しかし、同校は一年で廃校となったため、改めて第一高等学校、東京帝国大学法科大学に学びました。後に総理大臣となった若槻礼次郎とは大学の同期で、親しく交友を深めました。

大蔵省に勤める

1892年（明治25）東京帝国大学法科大学卒業後は大蔵省に勤務し、奈良県庁収税課長への出向を経て、大蔵省主計官、参事官、主計局長などを歴任しました。その後は1905年（明治38）韓国統監府参与官に任ぜられ、1910年（明治43）朝鮮総督府発足後も財政担当の度支部長官（大蔵大臣のような役職）として、朝鮮銀行、朝鮮殖産銀行を興すなど金融機関の創立整備を行いました。1916年（大正5）に帰国した賢太郎は、翌年に貴族院議員に選ばれています。

農商務大臣に就任

1922年（大正11）6月、賢太郎は加藤友三郎内閣の農商務大臣になりました。新潟県出身の最初の大蔵大臣として、第一次世界大戦後の不景気打開に取り組みました。

翌年8月、加藤の病死による内閣総辞職で任を解かれましたが、その後も枢密顧問官、枢密院副議長の要職に就きました。1938年（昭和13）1月、賢太郎は枢密院副議長の現職のまま74歳で亡くなりました。

1983年（昭和58）顕彰表示板が高田文化協会によって、生家があった西城町三丁目に設置されました。